

## PART 1

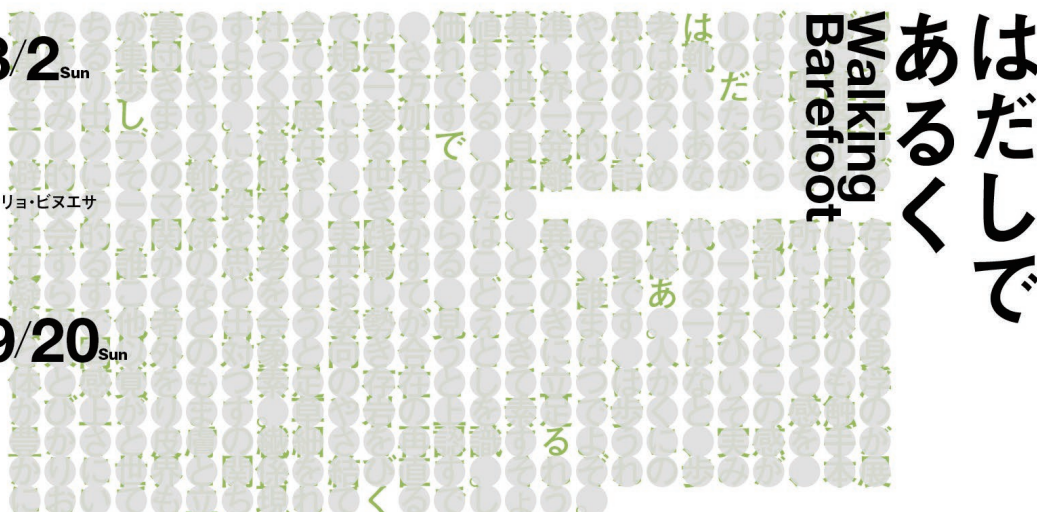
6/27<sup>Sat</sup>—8/2<sup>Sun</sup>

アナイス・カレニン  
アレクシア・アヒレオス  
池添 俊  
井上拓哉  
エドゥアルド・カスティージョ・ビヌエサ  
ノガミカツキ  
村上 郁

## PART 2

8/15<sup>Sat</sup>—9/20<sup>Sun</sup>

宇佐美奈緒  
ガン・ドンファン  
Synphysica  
ハラサオリ  
ディエゴ・ペレス  
水野 渚



トーキョーアーツアンドスペースレジデンス2026 成果発表展  
TOKAS Creator-in-Residence 2026 Exhibition

## トーキョーアーツアンドスペースレジデンス2026 成果発表展

## はだしであるく

## — 世界の街を舞台に滞在制作を行った、6ヶ国13組のアーティストたちによる成果発表展

トーキョーアーツアンドスペース（TOKAS）では、2006年よりレジデンス・プログラム「クリエイター・イン・レジデンス」を開始し、東京や海外の派遣先を舞台に、さまざまな分野で活動するアーティストやクリエイターたちへ活動の機会を提供しています。本展では、2025年度に世界各地の提携機関や東京のTOKASレジデンスで滞在制作を行った13組のアーティストが成果を発表します。

## 展覧会概要

展覧会名：はだしであるく [トーキョーアーツアンドスペースレジデンス2026 成果発表展]

出展作家：第1期 | アナイス・カレニン、アレクシア・アヒレオス、池添 俊、井上拓哉、  
エドゥアルド・カスティージョ・ビヌエサ、ノガミカツキ、村上 郁

第2期 | 宇佐美奈緒、ガン・ドンファン、Synphysica、ハラサオリ、ディエゴ・ペレス、水野 渚

会期：第1期 | 2026年6月27日（土）～8月2日（日）

第2期 | 2026年8月15日（土）～9月20日（日）

会場：トーキョーアーツアンドスペース本郷（東京都文京区本郷2-4-16）

開館時間：11:00 - 19:00（最終入場は30分前まで）

休館日：月曜日（7月20日は開館）、7月21日（火）

入場料：無料

主催：トーキョーアーツアンドスペース（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）

提携機関(都市)：アトリエ・モンディアル（スイス、バーゼル）、カリーズ（ドイツ、ベルリン）、センター・クラーク、  
ケベック・アーツカウンシル（カナダ、ケベック州 [モントリオール]）、HIAP [ヘルシンキ・インターナショナル・アーティスト・プログラム]、フィンランド文化財団（フィンランド、ヘルシンキ）、  
トレジャーヒル・アーティスト・ヴィレッジ、アーティスト・イン・レジデンス台北（台湾、台北）、  
ウィールズ、ベルギー・フランダー政府（ベルギー、ブリュッセル）

ウェブサイト：<https://www.tokyoartsandspace.jp/archive/exhibition/2026/20260627-7557.html>

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）

広報担当：舟橋、キム、武智

TEL：03-5245-1142 FAX：03-5245-1140 E-mail：press@tokyoartsandspace.jp

## 本展について

本展では、2025年度に東京や世界各国の提携機関のレジデンスに滞在した国内外のアーティストたちが、その成果を発表します。第1期は、「テクノロジーと人間のかたち」というテーマを共有してTOKASレジデンスで滞在制作を行った4名を含む7名が、第2期は6組の作家が同じ空間を共有して行うグループ展です。

私たちが暮らす社会では、価値基準や思考はしばしば、帰属する集団によって規定されます。それは靴を履くように、身を守り歩きやすくすると同時に、世界とのあいだに一定の距離を生み出します。本展に参加するアーティストたちは、それぞれのテーマを探究する中で、意図的あるいは必然的にその靴を脱ぎ、素足になって世界に触れ直しています。

社会的な関係を扱う彼らの実践からは、属性や役割を一度外し、個へ戻ろうとする視点が見えてきます。たとえば、異なる時代や場所に存在する誰かの思考と共鳴することや、身体の一部に目を凝らすことなどをおして、どこの誰であるかとは別の地平で、他者と出会っています。

一方で、人間以外のものと対峙する際には、社会の靴は通用しません。人間は自然という脅威の中で生存するために群れをつくり、社会を育んできました。それでも自然に向き合う時は、ひとつの身体と感覚をもつ素足の生き物として立つほかありません。

このように彼らは自発的に、あるいは不可避免的に、社会的な前提からいったん離れ、脆弱性を引き受けながら世界との距離を詰めようとしています。素足で草や岩の上を歩くと、その感触の豊かさと皮膚の繊細さを再認識するように、自らの実感を手がかりに世界と関係を結び直す。それぞれの歩みが、本展においても立ち現れてくるでしょう。

## 関連イベント

### アーティスト・トーク（予定）

【第1期】 6月28日（日）16:00 – 18:00 [日英逐次通訳]

出演：アナイス・カレニン、アレクシア・アヒレオス、井上拓哉、  
エドゥアルド・カスティージョ・ビヌエサ、ノガミカツキ

7月4日（土）16:00 – 17:00

出演：池添 俊、村上 郁

【第2期】 8月16日（日）16:00 – 17:30

出演：宇佐美奈緒、ハラサオリ、水野 渚

8月22日（土）16:00 – 17:30 [日英逐次通訳]

出演：ガン・ドンファン、Synphysica、ディエゴ・ペレス

※日程および参加アーティストは変更となる場合があります。

※手話通訳をご希望の方は事前にお申し込みください。詳細は後日 TOKAS ウェブサイトにてご案内いたします。

## 参加アーティスト／広報用画像

第1期：2026年6月27日（土）～8月2日（日）

テーマ・プロジェクト

## 「テクノロジーと人間のかたち | Technology and the future of humanity」

テーマ・プロジェクトでは、TOKAS レジデンシーに滞在した4名のアーティスト、アナイス・カレニン、アレクシア・アヒレオス、エドゥアルド・カスティージョ・ビヌエサ、ノガミカツキが、「テクノロジーと人間のかたち」を主題に、対話や議論を重ねながら個別に制作活動に取り組みました。

テクノロジーによる人間の認識への影響やテクノロジーと社会との関係などについて、それぞれの制作や芸術的実践をとおしてどのように提示、応答しているのかを話し合い、探究の手がかりを探りました。



1.

《Ancestralidade: planta.》 2023

撮影：竹久直樹

## アナイス・カレニン | Anais-karenin

国内クリエイター制作交流プログラム(2025年5月～7月滞在)

アナイス・カレニンは、植民地時代以前から伝わる知識体系を研究し、感覚的な方法論を用いて人間と植物の関係を問い直しています。東京滞在中は、江戸時代から近代化に至る技術史を調査し、知の構築と同時に形成された薬草や鉱物に対する体系化と収奪のまなざしを考察するとともに、祖先の知と人工知能との交差点を探究しました。本展では、新植民地主義的な論理を超えて信仰と知を再編成する立体作品を発表します。

【プロフィール】1993年ブラジル生まれ。静岡県を拠点に活動。2024年サンパウロ大学大学院博士課程修了(現代美術)。主な展覧会に「野良になる」(十和田市現代美術館、青森、2024)など。主な活動に「シンガポール美術館レジデンシー」(2026)など。



2.

《The Fox Who Tricked the Superintelligence &amp; Other Stories》 2025-

撮影：Loucas STAVROU

## アレクシア・アヒレオス | Alexia ACHILLEOS

海外クリエイター招聘プログラム(2025年5月～7月滞在)

アヒレオスは、歴史、文化、地政学と、テクノロジーを取り巻く権力構造の関係性を研究するアーティスト、研究者です。東京滞在中には、プレイヤー同士が協働して新たな「民話」を創造し、ビッグテック企業がAIや未来について語るユートピア的「神話」に異議を唱える参加型カードゲームを制作しました。本展では、プレイされる度に各地で生まれたさまざまな物語とカードゲームを展示します。

【プロフィール】1985年ストックホルム生まれ。レメソス(キプロス)を拠点に活動。2010年キングス・カレッジ・ロンドン修了(カルチュラル・クリエイティブインダストリー)。主な展覧会に「The World Through AI」(Jeu de Paume、パリ、2025)など。



3.  
《RAINMAKERS》映像より抜粋 2026

## エドゥアルド・カスティーリョ・ビヌエサ |

### Eduardo CASTILLO-VINUESA

#### 海外クリエイター招聘プログラム (2025年5月～8月滞在)

建築家、リサーチャー、映像作家のカスティーリョ・ビヌエサは、気候、テクノロジー、地政学が重なる領域に着目し、空間技術と視覚文化が現代における統治のあり方や生態系の変容に与える影響を探究しています。東京での滞在中は、日本が主導し2050年までに気象制御の開発を目指す「ムーンショット目標8」を軸にリサーチを行いました。今回発表する映像インスタレーションでは、大気に対して観測と介入の境界がますます曖昧になりつつある現状に焦点を当てます。

【プロフィール】1989年グラナダ（スペイン）生まれ。マドリードを拠点に活動。2017年マドリード工科大学修了（建築）。主な展覧会に「Weather Premium」（国立アジア文化殿堂、光州、韓国、2024）、「Foodscapes」（第18回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展、2023）など。

助成：スペイン文化省



4.  
《Post-Body Rehearsal》2025  
撮影：間庭裕基

## ノガミカツキ | NOGAMI Katsuki

#### 国内クリエイター制作交流プログラム (2025年5月～7月滞在)

ノガミはデジタル社会において、身体と記憶により形成される、オンラインとオフラインそれぞれのアイデンティティを追究しています。TOKASレジデンス滞在中は、自身の日記をもとに翌日の日記をAIに書かせ、それに応じて生活を変えるインタラクティブな試みや、アバターとリアルな身体とのズレに着目するVRパフォーマンスを行いました。本展ではこれらのアーカイブと合わせて、自身の感情の記憶メディアとして滞在中から制作していた音楽作品を発表します。

【プロフィール】1992年新潟県生まれ。神奈川県を拠点に活動。2024年リンツ芸術デザイン大学大学院修了（インターフェイス文化）。主な活動に「SIMULTAN 2024」（ティミショアラ、ルーマニア）、「Speculum Artium」（トルボヴリエ、スロベニア、2024）、「Paxos Biennale 2024」（パクス島、ギリシャ）など。





5.  
新作映像より抜粋 2026

## 池添 俊 | IKEZOE Shun

二都市間交流事業プログラム<ブリュッセル>  
(2025年4月～6月滞在)

映画と現代美術の領域を横断して活動する池添は、社会や歴史の中で取りこぼされやすい個人の話や記憶を収集し、普遍的な物語へと再構成します。滞在先であるヘール（ベルギー）では、700年以上にわたり、精神疾患のある人々と地域住民が共に暮らす里親制度が受け継がれています。本展では、現地でのインタビューをもとに、「健常／病」をひとつの連続体として捉え直し、境界を問い直す映像インスタレーションを発表します。

【プロフィール】1988年香川県生まれ、大阪府育ち。東京都を拠点に活動。主な活動に「令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業成果発表イベント『ENCOUNTERS』」（TODA Hall & CONFERENCE TOKYO、東京、2025）、「第31回マルセイユ国際映画祭」（Théâtre du Gymnase、La Baleine、2020）など。

助成：公益財団法人 朝日新聞文化財団



6.  
《Project "ABC"》2025

## 井上拓哉 | INOUE Takuya

二都市間交流事業プログラム<ケベック>  
(2025年4月～7月滞在)

旅で出会う風景や人々を起点に絵画制作を行い、「普遍性」の概念を探究しています。各々がイメージする「肌色」に絵具を混色してもらった参加型プロジェクトをケベックにて行った井上は、多様性を国の基盤とする文化的差異と、普遍性を問うこと自体が内包する暴力性を実感したと言います。自己の視点だけに留まらず、他者との関係性を織り込み、「私が見ていないもの」を問うように制作した絵画作品を展示します。

【プロフィール】1993年岡山県生まれ。福島県を拠点に活動。2021年東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。主な展覧会に「Kikospace Sound Baths with Paintings by Takuya Inoue」（Kikospace、トロント、2024）、「同然」（MEGAFIELD、北京、2024）など。



7.  
《のの紙（雑草紙）》テストピース 2026

## 村上 郁 | MURAKAMI Kaoru

二都市間交流事業プログラム<バーゼル>  
(2025年4月～6月滞在)

「散歩」と称した、直感と理論を組み合わせたりサーチを通じて、技術を介した人間と自然の関係を考察する村上は、バーゼルの紙漉きと印刷の歴史を調査し、雑草を用いた紙づくりを行いました。その過程で定期的な水換えが植物繊維の状態維持を助けたことから、自然の力と人の手による制御や管理の關係に着目しました。本展では、水の循環システムと映像を組み合わせた立体作品を中心に発表します。

【プロフィール】東京都生まれ。東京都を拠点に活動。2008年ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズカレッジファイン・アート学科卒業。主な展覧会に「神戸六甲ミーツ・アート2024 beyond」（六甲山芸術センター）、「中之条ビエンナーレ2023」（旧梅月、群馬）など。

## 第2期：2026年8月15日（土）～9月20日（日）



8.  
《Silence and Oblivion》 2025  
撮影：Leonard NEUBERGER

## 宇佐美奈緒 | USAMI Nao

二都市間交流事業プログラム<ベルリン>  
(2025年9月～11月滞在)

宇佐美はフェミニズム研究にもとづき、映像やパフォーマンスのほか、ビデオゲームで他者の視点や身体感覚に迫る表現を追究しています。ベルリンでは地下壕や強制収容所などの戦争遺構を訪れ、肉体的・精神的に抑圧された身体をリサーチしました。本展で発表するビデオゲーム作品は、戦時中密かに執筆を続けた作家らが自らの著書の焚書に立ち会う場面をモチーフに、人間と書籍の温度を3Dコンピュータ・グラフィクス化し、追体験する機会を提供します。

【プロフィール】東京都と愛知県を拠点に活動。2020年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。主な展覧会に「See me, Feel me - A collective story, a shared resilience」(OTTE、コペンハーゲン、2025)など。主な受賞に「リアルスエレクトロニカ 2024」New Animation Art 部門 Honorary Mention など。

助成：公益財団法人 熊谷正寿文化財団



9.  
《Binary Composition for Two Cellos》 2024  
撮影：Ivan MURZIN

## ガン・ドンフン | GANG Donghoon

## 海外クリエイター招聘プログラム (2026年1月～3月滞在)

ガンは、音や音楽が歴史を通じて社会でどのように消費、誤用されてきたかを探究する、アーティスト、作曲家、研究者です。東京滞在中は、近代化の過程で東アジアへ西洋音楽が流入した影響で生じた音楽的ヒエラルキーや当時の音楽教育について、ポストコロニアルの視点から考察を深めました。300年前に西洋でメロディーが生まれ、歌詞や役割を変容させながら各地へ伝わり、現在も日韓両国でよく知られている童謡をモチーフに作品を発表します。

【プロフィール】1992年済州島（韓国）生まれ。フランクフルトとソウルを拠点に活動。2024年国立造形美術大学シュテューデルシュレー・フランクフルト修了（ファインアート）。主な展覧会に「Triglossia」（錦湖美術館、ソウル、2026）、「Envelopes」（N/A、ソウル、2026）など。



10.  
《Virtual Root》 2021

## Synphysica

(方志軒<ファン・チーシュアン> & 周巧其<チョウ・チャオチー> |  
FANG Chih Hsuan & CHOU Chiao Chi)

## 海外クリエイター招聘プログラム (2026年1月～3月滞在)

Synphysica はアートと科学をとおして、人間と非人間的システムの相互作用について探求するコレクティブです。生体信号を可視化することで、人間の知覚を超えた環境を顕在化させ、生命の主観的な視点からその輪郭を捉えようと試みています。東京滞在中は日本庭園や森林を調査し、管理された環境と生態学的な観点の緊張関係を考察しました。本展ではこれらをもとに、実際の草木を用いて人間と自然が対話する空間を立ち上げます。

【プロフィール】2018年に設立した台湾拠点のアート・サイエンス・コレクティブ。キュレーターの方志軒、アーティストの周巧其、胡悠揚で構成。主な展覧会に「AI・Creature・Multiverse」（Seoul Arts Center、ソウル、2024、国立アジア文化殿堂、光州、韓国、2025）など。



11.

《P wave》 2021

撮影：NAKAYAMA Yunosuke

## ハラサオリ | HALA Saori

### 二都市間交流事業プログラム<台北>

(2025年9月～11月滞在)

ハラは、空間や社会に内包される「振付」的な事象へ応答するように、パフォーマンス作品を発表しています。台北では地震と人の関係をリサーチする中で、重層的に存在する軍事的緊張や情報戦などの異なる「揺れ/揺さぶり」と、全国防災訓練などの制度的反復に触れました。本展では、映像、写真、パフォーマンスをとおして「危機を記憶し、備える身体」への想像力を拡張し、災害や戦争といったあらゆるカタストロフィと身体の問題へ接続することを目指します。

【プロフィール】1988年東京都生まれ。東京都を拠点に活動。2018年ベルリン芸術大学修了（舞踊）。主な活動に「プレイ・モデュロール」（公演、シアターラム、東京、2025）、「P wave」（公演、ゲーテ・インスティトゥート東京、2024）など。

助成：公益財団法人アイスタイル芸術文化財団



12.

《Sumida fountain I》 2025

撮影：間庭裕基

## ディエゴ・ペレス | Diego PÉREZ

### 海外クリエイター招聘プログラム (2025年9月～11月滞在)

ペレスは、素材や地域の歴史、日常生活との関係や他者との交流を起点に、絵画や写真、彫刻などさまざまな手法で制作を行います。東京滞在中は特に墨田区周辺を散策し、日々目にしたものの記録に専念する中で、街並みの変化やビルが立ち並ぶ様子に関心を抱き、自身の記憶やイメージと重ね合わせるように陶芸作品を制作しました。また日本庭園から着想し、じょうろ職人と協働して制作した、水が循環する銅の彫刻を展示します。

【プロフィール】1975年メキシコシティ生まれ。メキシコシティを拠点に活動。1999年 Escuela Activa de Fotografía 卒業（写真）。主な展覧会に「Derivas de la forma escultórica: irrupción y densidad」（Museo de Arte Moderno、メキシコシティ、2025）など。



13.

ツアーワークショップの様子 2025

撮影：Mikko LUOSTARINEN

## 水野 渚 | MIZUNO Nagisa

### 二都市間交流事業プログラム<ヘルシンキ>

(2025年8月～11月滞在)

人と土地との関係性やケアのあり方を探究する水野は、元ごみ処理場の埋立地で、現在は動植物に開かれた豊かな生態系をもつヴォサーリ丘陵に着目しました。土壌専門家や丘陵の清掃員などから話を聞いて知見を深め、ツアーワークショップを実施。地質学者と土地の歴史に触れ、歩く中で出合った風景や音と各々の感情を起点に、参加者と協働して音響詩を制作しました。本展ではその記録と記憶から生まれた物語を通じて、人と土地とのより多様で包摂的な関わり方の可能性を提示します。

【プロフィール】愛知県生まれ。2025年東京藝術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻修了。主な展覧会に「A-TOM ART AWARD 2024」（コートヤード HIROO、東京）、「Eco Emotional Footprint」（アアルト大学、ヘルシンキ、2023）など。

「はだしであるく」  
広報用画像申込書

Email : [press@tokyoartsandspace.jp](mailto:press@tokyoartsandspace.jp)

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください。下記の URL からダウンロードも可能です。)

1  2  3  4  5  6  7  8  9  10  
 11  12  13  ウェブバナー

<https://www.tokyoartsandspace.jp/press/form/30>

掲載媒体名 (特集・コーナー名)

種別  TV  ラジオ  新聞  フリーペーパー  ネット媒体  その他 ( )

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送 ( 月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

E-mail (画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

- ・ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただく目的のみ利用させていただきます。
- ・お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

- ・画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。
- ・画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1～2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。
- ・作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。
- ・提供した画像データは、使用後速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Webサイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。
- ・情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。
- ・取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVDを一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Webサイトの場合は、掲載時にURLをお知らせください。

< お問い合わせ > ※校正グラ及び掲載誌紙・DVD等は下記宛にお送りください。  
〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1 東京都現代美術館内  
トーキョーアーツアンドスペース (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)  
広報担当: 舟橋、キム、武智  
TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1140 E-mail: [press@tokyoartsandspace.jp](mailto:press@tokyoartsandspace.jp)